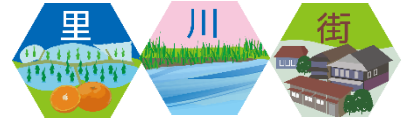


富水地区



【地区の自然環境概要】

富水地区は、里、川及び街の要素を持つ地区です。

西部にはミカン畑などの果樹園や耕作地が広がり、丘陵地等の里地里山環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。南西部には「**県立おだわら諏訪の原公園**」があり、草地環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。

中央部には南北に狩川が流れ、さらに東側を仙了川、北側を要定川が流れています。狩川の東側には住宅地や水田が広がっており、田園環境や河川等の水辺環境を好む動植物の生育・生息の場となっています。



【地区で見られる動植物】

河川や水田などの水辺・草地環境、果樹園等を含む里地里山環境があり、このような環境を利用する動植物の生育・生息の場となっています。良好な田園環境や小田原市内では少ない草地環境は、その環境のみで生育・生息できる種の貴重なすみかでもあり、大切に守っていききたい環境です。

- 北西部を中心に水田が広がり、オモダカやコナギ等の水田雑草が生育しています。アズマモグラ等の哺乳類、ヒバリやスズメ等の鳥類、ニホンアマガエル等の両生類、アジアイトトンボ等の昆虫類などが見られ、水田環境を特徴づける種が生息しています。¹また、小川や水田環境を好むヘイケボタルも確認されています。周辺では、アマサギが確認されていますが、確認数は非常に少なく、激減している種のひとつとされています。²
- 南西部は人工林や二次林、果樹園が混在し、キジやコガラ、シロハラ等の平地から山地の樹林を利用する鳥類や、ツグミやモズ、ニイニイゼミ等の果樹園や農耕地を利用する鳥類や昆虫類などが確認されています。³
- 「**県立おだわら諏訪の原公園**」には芝を主体とした草地が広がり、カタバミやチガヤ、セイヨウタンポポ等の植物が生育しています。アズマモグラ等の哺乳類、ホトトギス等の鳥類、鳴く虫であるヒガシキリギリスやスズムシが見られ、草地環境を特徴づける種が生息しています。⁴
- 魚類では、仙了川で緩い流れを好むミナミメダカ（絶滅危惧種）や、オイカワやアユなどの河川中流域でよく見られる種が生息しています。⁵

¹ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

² 参考：平成29年（2017年）～令和元年（2019年）に実施したヒアリング調査結果

³ 参考：平成29年度 小田原市自然環境等現況調査委託業務 文献調査結果

⁴ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果

⁵ 参考：平成30年（2018年）～平成31年（2019年）に実施した現地調査結果



ヒバリ

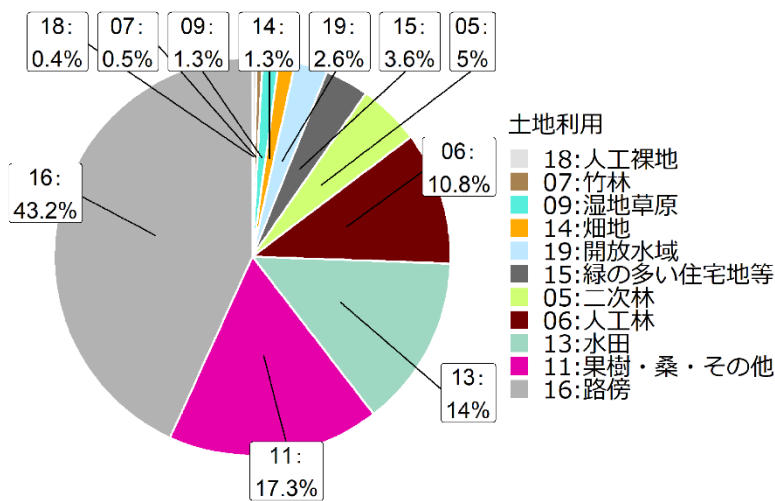


ニホンアマガエル

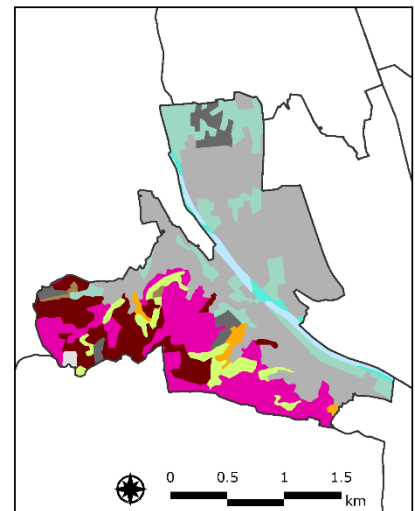


ミナミメダカ

- 植生図をもとに作成された土地利用を見ると、中央部から東部にかけては主に路傍が占め、土地利用の約4割となっています。また、狩川沿いや北東部には水田が広がっています。南西部は果樹園や畑地、人工林、二次林等が混在しており、里地里山環境が約3.5割を占めています。⁶



富水地区の土地利用割合



富水地区の土地利用

【暮らしと自然のつながり（生態系サービス）】

自然体験・観察の場や身近にある緑、食の供給など、日々の生活の中で自然環境からの恩恵を受けています。

～文化的つながり～

- **自然体験・観察の場**：「**県立おだわら諏訪の原公園**」は、里山の自然や地域文化とふれあいながら、散策やレクリエーションなどに利用できる公園です。丹沢の山並みを背景に足柄平野が一望できる「展望広場」、県立都市公園最長 169 メートルの「ローラー滑り台」、開放感あふれる芝生の「多目的広場」、ミカンなどを栽培する「ふるさと果樹園」などがあります。⁷本公園では、桜（ソメイヨシノ・ヤマザクラ）の花やバッタやカブトムシなどの昆虫等、丘陵の自然の観察にも適しています。⁸
- **神社・寺院**：神社や寺院が多数あります。社寺林は、生活の身近にある緑として住環境の向上や心の安らぎに寄与します。また、一般的に神社・寺院の境内は、こどもの遊び場としても役立ってきました。
- **その他の資源**：足柄平野では、平野の上流部や箱根火山外輪山から涵養された河川水や灌漑用水、地下水などが、平野中・下流部に分布する難透水層によって被圧され、大井町南部から小田原市北部を結ぶ線

⁶ 出典：日本全国標準土地利用メッシュデータ（国立環境研究所）

⁷ 出典：神奈川県立おだわら諏訪の原公園 HP <https://www.seibu-la.co.jp/suwanohara/>

⁸ 出典：小田原の自然（小田原市教育研究所,平成9年（1997年））

と、国道 271 号(小田原厚木道路)とで挟まれる範囲に自噴域を形成しています。⁹本地区における自噴井戸は 87 井(小台、新屋、府川、清水新田、柳新田、飯田岡、北ノ窪の合計)確認されており、地下水が地表面に湧出する様子が地域の豊かな水環境をかもしだしています。¹⁰

- **景観スポット**：「**県立おだわら諏訪の原公園**」や「**久野丘陵**」を歩くウォーキングコースからは、相模湾や市街地の眺望を楽しむことができます。

～食のつながり～

- **米**：狩川の東側を中心に水田が広がり、食を供給しています。
- **果樹**：西部ではミカン畑などの果樹園が広がり、季節の味覚を供給しています。
- **特用林産物**：タケノコなどの特用林産物が生産されています。¹¹

【地区で見られる特徴的な自然】

巨樹・巨木林に選定された樹木など、大切に守り残していきたい自然環境が存在しています。

- **巨樹・巨木林**：飯田岡及び府川に生育する次表の樹木は、環境省が実施する自然環境保全基礎調査の巨樹・巨木林調査¹²で、保全すべき巨樹・巨木林に選定されています。

巨樹・巨木林概要

所在地	樹種	樹高(m)	樹幹(cm)	調査年
飯田岡	タブノキ	18	300	-
府川	カヤ	16	350	平成12年(2000年)
	カヤ	16	330	平成12年(2000年)

※出典：第6回自然環境保全基礎調査 巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書(環境省自然環境局生物多様性センター、平成13年(2001年))

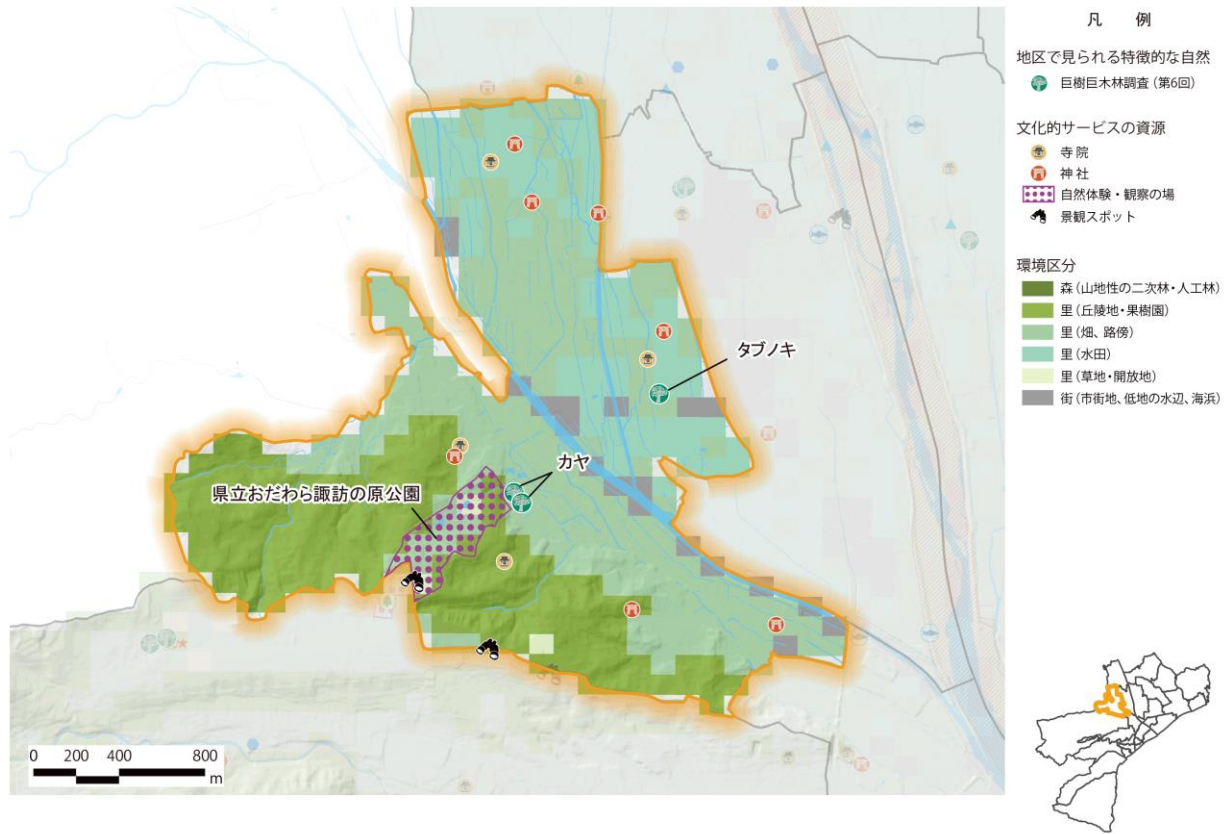
- **重要地点**：平成29年(2017年)～30年(2018年)に実施した自然環境調査結果の評価・分析を行ったところ、現地調査結果を踏まえ重要種が多いと評価された現地調査地点「**陸域 No.24 (神奈川県立おだわら諏訪の原公園)**」を将来に渡り守っていくべき重要地点として選定しました。

⁹ 出典：足柄平野の自噴井湧水について(宮下雄次)

¹⁰ 出典：酒匂川右岸地域の自噴井戸(日々野英俊ら)

¹¹ 出典：神奈川県西地域県西総合センター森林保全課資料

¹² 巨樹・巨木林調査：巨樹・巨木林は、わが国の森林・樹木の象徴的存在であり、良好な景観の形成や野生動物の生息環境、地域のシンボルとして人々の心のよりどころとなるなど、保全すべき自然として重要である、として、その全国的な実態を把握することを目的に実施されている調査



富水地区の自然環境マップ